

# 生活を豊かにしていく力を育む授業づくり(1)

～知的障がい教育における主体的・対話的で深い学びの具現化をめざして～

企画者	白府 士孝（北海道教育大学附属特別支援学校） 細谷 一博（北海道教育大学函館校） 北村 博幸（北海道教育大学函館校）
司会者	太田千佳子（北海道教育大学附属特別支援学校）
話題提供者	白府 士孝（北海道教育大学附属特別支援学校） 中村耕太郎（北海道教育大学附属特別支援学校小学部） 高石 純（北海道教育大学附属特別支援学校中学部） 清水 拓海（北海道教育大学附属特別支援学校高等部）
指定討論者	矢口 明（名寄市立大学）

KEY WORDS: 「児童・生徒が求める資質・能力」 「生活を豊かにしていく力」 「主体的・対話的で深い学び」

## 【企画趣旨】

平成 28 年 12 月に、文部科学省より「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」が取りまとめられ、特別支援学校においても、学びの質を高めるために“主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた指導方法の充実”を図り、さらにその中で今後求められる資質・能力を育むことが重要であると示された。

そこで、北海道教育大学附属特別支援学校(以下、本校)では、全校児童・生徒の個別の教育支援計画(本人及び保護者の願い)から、本校の「児童・生徒が求める資質・能力」を洗い出した。本校の児童・生徒が求める資質・能力とは、「身に付けた知識・技能を生かして、一人一人が自分の意思で活動する力」であると捉え、ある特定の学習や生活に必要な力ではなく、全ての学習や生活において横断的に必要とされる力であり、これはまさに「生活を豊かにしていく力」であると定義した。また、「自分の意思で活動する」とは、名古屋(2010)の自立観を参考にして、適切な支援条件下で、自分で思考し、判断し、表現することと捉えた。この生活を豊かにしていく力を育むためには、生活に必要な知識・技能を身に付ける従来の授業に加えて、さらに自ら学び、仲間と高め合える状況づくりが必要であると考えた。具体的には、「自分の意思で取り組む状況」と「仲間の中で知識・技能を生かす状況」と「自分や仲間の良さを共有する状況」である。こうした状況づくりの中で行う学びを、本校では、「主体的・対話的で深い学び」であると捉えた。

そして、各学部での授業実践を通して検証した結果、児童・生徒が学ぶ理由を理解し、今ある知識・技能を生かしながら自分の意思をもって活動する様子が見られるようになった。また今後は、有効的な支援と分析的な学習評価の在り方をより丁寧に探ることが次の課題として明らかになった。

本シンポジウムでは、本校で実施した授業を紹介する中で、主体的・対話的で深い学びをどのように捉え、どのように進めるのかについて、今後の方向性を検討したい。

## 【話題提供Ⅰ】小学部における実践報告：中村耕太郎

小学部では、研究仮説を「自らチャレンジし、仲間と一緒に活動する授業を設定することで、児童は身に付けた知識・技能を生かして、楽しみながら、一人一人が積極的に取り組むことができるだろう」とした。そして、家庭生活と関連づけながら、これまでの授業に興味・関心をもつ状況づくりと仲間と一緒に知識・技能を広げる状況づくりと

自分や仲間の良いところに注目する状況づくりを設定した。ここでは、それらの実践事例を紹介しながら、小学部段階における主体的・対話的で深い学びについて、「楽しみながら、積極的に取り組むための授業づくり」の視点から話題提供したい。

## 【話題提供Ⅱ】中学部における実践報告：高石純

中学部では、研究仮説を「自ら課題を解決し、仲間と互いにかかわり合う授業を設定することで、生徒は身に付けた知識・技能を生かして、一人一人が目的をもって学びに向かうことができるであろう」とした。そして、地域生活と関連付けながら、これまでの授業に、目的を達成しようとする状況づくりと仲間と一緒に知識・技能を活用する状況づくりと仲間と共に達成感を味わう状況づくりを設定した。ここでは、それらの実践事例を紹介しながら、中学部段階における主体的・対話的で深い学びについて、「目的をもって学びに向かうための授業づくり」の視点から話題提供したい。

## 【話題提供Ⅲ】高等部における実践報告：清水拓海

高等部では、研究仮説を「自ら知識や体験を活用し、仲間とともに考える授業を設定することで、生徒は身に付けた知識・技能を生かして、自分の意思で目的に向かって活動することができるであろう」とした。そして、職業生活と関連付けながら、これまでの授業に、経験を生かして自己決定する状況づくりと仲間の中で協力・協働する状況づくりと互いの良いところを認めあえる状況づくりを設定した。ここでは、それらの実践事例を紹介しながら、高等部段階における主体的・対話的で深い学びについて、「自分の意思で目的に向かって取り組むための授業づくり」の視点から話題提供したい。

## 【指定討論者の趣旨】矢口明（名寄市立大学）

本研究において、自ら学び、仲間と高め合える状況づくりの中で「生活を豊かにしていく力」を育むことの意義やその課題について話題提供者と共に振り返り、今後の知的障がい教育における「主体的・対話的で深い学び」の在り方について検討していくための論点を提供する。

(文献)

文部科学省(2016)幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)、113-119

名古屋恒彦(2010)「領域・教科を合わせた指導」のABC。東洋館出版社、17-18。

(SHIRAFU Noritaka, HOSOYA Kazuhiro, KITAMURA Hiroyuki, OTA Chikako, NAKAMURA Koutarou, TAKAISHI Jun, SHIMIZU Takumi)